

令和6年度 上田市立 浦里小学校 自己評価シート

学校教育目標	めざす子どもの姿(中期的目標)	
自分のよさを切り拓く子ども ①進んで勉強しよう ②思いやりのある人になろう ③丈夫な心と体をつくろう ④ふるさと(浦里)に学ぼう	自ら気づき 自ら問いかけ(考え) 自らやってみる 子どもに	
	今年度の重点目標	
	①	子ども理解に基づく授業構想～個別最適な学び～
	②	自他のよさを認め合う場面の位置づけ
	③	運動・遊びの日常化
	④	子どもの気づきや願いを基にした探究的な学び

領域	対象	評価項目	評価の観点
重点目標	①	子どもの実態把握	子どもと関わる時間、授業の評価、各種アセスメント等をもとに、一人一人の興味関心、願い、支援の方向などについて、把握したか。
		三観点を意識した授業	「子どもの言葉で疑問形の学習問題」「振り返りの位置づけ」などを行い、一時間の流れがわかる板書をしているか。
		個別最適な学び	一人一人の学び方の個性を生かしたり、合理的な配慮に基づいたりした学習を保障しているか。
	②	異年齢の友だちとの活動	縦割り班、連学年授業、連学年担任制、こまゆめ教室、保育園との交流などを通して、相手を思いやる意識を高める場面で設定できたか。
		コミュニケーション能力の育成	ICT授業や連学年授業を充実させ、友だちと関わり、学び合う場面が位置付いた授業が行われていたか
	③	体力づくり・遊びなどの日常化	マラソン、休みがき、休み時間の遊びなどの場面で、子どもたちが自分から体を動かすよさを感じるようにはたらかせたか。
		健康増進への取り組み	歯科指導、栄養指導など、子どもたちが自身の健康に意識を向けるような学習を行ったか。
	④	ふるさと学習の充実	地域の方と連携し、教科横断的なふるさと学習を実施できたか。
		探究的な総合的な学習の時間	生活科・総合的な学習の時間を、子どもたちの願いや気づきから組織し、探究的な学びを保障できたか。
	学校運営	地域との連携	
		コミュニティ・スクール	授業や行事への参加を通して、学校運営に意見をいただき、その意見を教育活動の改善に生かしたか。
		PTA活動	コミュニティ・スクール実践目標のあいさつ・メディアとの関わりを重点に、学級懇談会で取り上げ、地域・家庭と連携して取り組むことができたか。
		研修	
		授業づくり研修	「(自ら)気づき 問いかけ(考え) やってみる」子どもを目指して、教科研究を行い、一人一人が授業改善を行ったか。
		働き方改革	学校業務を効率化したリチームで取り組んだりして、超過勤務を4月と比べて縮減できたか。

総合評価					
少人数のよさを生かし、多くの職員で全児童に関わり、実態把握を基に支援や学びの場の設定を行うことで、意欲的に学習に取り組む姿が見られている。運動会や音楽会などの行事も、個のよさを生かす内容や役割分担を考え、一人一人が満足し、協力するよさを感じられるものとなった。 少人数のため、一人一人がやってみる場を保障されている一方で、大人対子どもの関わりが多くなりがちで、子どもたちだけで学習や活動を進めていくことに課題が見られる。学校・保護者・地域の方と連携をとることが重要だと考えられるので、地域の方と話し合う場や、話し合ったことを実現させていくことを大切にしてい。お互いの思いを理解し、共に子どもたちの活動を見守っていくことで、子どもたちが安心安全な場所で自分のよさを切り拓いていくことにつなげていきたい。					
成果と課題	A	B	C	D	改善策・向上策
多くの職員で関わり情報共有し、個に応じた課題の設定やICTの活用など、個別の支援や学びの場の設定を行った。授業での学びを、自主的な学習につなげる方法を探りたい。		○			自分の学びを振り返ることを大切にし、自分で学習を計画・調整することにつなげていきたい。外部機関とも連携し、引き続き児童理解を大切にしてい。
他学年と一緒に活動する機会を教科学習や行事、昼の活動の時間など、多くつくることができ、特に上の学年の児童が下の学年の児童を大切にしながら協力する姿が見られた。		○			自己肯定感の低い児童もいるため、よさを言語化し振り返る場を大切にしてい。
マラソン大会を11月にしたこと、昨年度よりも朝マラソンに取り組む児童が増え、継続している児童が多い。暑さが落ち着いてからは、外で学年の枠を越えて遊ぶ姿が見られた。		○			来年度も、縦割り班や全校で遊ぶ「みんなで遊ぶ時間」で、他学年と遊ぶ経験を大切にしてい。朝マラソンの継続を児童会と連携して取り組んでい。
授業づくり研究会で子どもの願いを基にした授業の在り方について考え、授業を行った。ふるさと学習がより探究的な学習になるよう、地域の方と共通理解する場を設けた。		○			総合的な学習では子どもたちや教師の願いをはっきりさせ、自分たちで学習を進めていくことを大切にする。年度末に次の学年でやりたいことを子どもたちが考える機会をとる。

成果と課題	A	B	C	D	改善策・向上策
毎月の「自分を見つめるアンケート」や相談週間の個別面談で実態把握を行った。全ての職員で関わり、情報共有し支援につなげた。	○				アンケートだけでなく、面談することで聞き出せることもあるので、相談週間を位置づけていく。引き続き授業以外での「子どもと関わる時間」を大切にしてい
デジタル教科書を使用することで、1時間の学びの筋道がわかる板書のあり方について、今までは違う方法を研究していく。振り返りの時間の確保に努める。		○			ねらいは「疑問形」にならない時もあるが、ねらいをはっきりさせ、どんな学びがあったのかふりかえる時間は必ず確保していきたい。
個に応じた課題の設定やICTの活用など、個別の支援や学びの場の設定を行った。小中連携事業により、中学校での学習方法について経験することができた。		○			小中連携での中学校教員による授業を参考に、中学校への移行をていねいに行っていく。自分で学習を計画する力を育てることを意識してい。
クラスの人数が少ない分、道徳や他教科を連学年で行うことで様々な意見に触れることができた。下の学年を気遣う姿が見られる。	○				縦割り班での「みんなで遊ぶ時間」の活動を継続し、自分たちで計画したルールを決めたりしながら活動することを大切にしてい。
デジタル教科書やAIドリルなど、ICTの活用が充実した。そのおかげで、個に応じた学習を進めることができたが、関わり合いや学び合いの場面については、課題が残る。		○			友だちとの関わりや学び合いを深めるICTの活用の仕方を探る。また、少人数のため、大人対子どもの関わりが多くなりすぎないよう心がける。
マラソン大会を11月にしたこと、個人差があるが朝マラソンに毎日取り組んでいる児童も多い。休み時間にも、時期によって様々な体を動かして遊んでいる様子が見られた。		○			マラソン大会に向けて、朝のマラソンに意欲をもてるよう、児童会での取り組みを中心に進めていく。
歯科指導や栄養指導を専門の先生方から丁寧に行っていた。睡眠についても講演や保健指導を通じ、振り返ることができた。	○				繰り返し振り返り、習慣として定着するように呼び掛けていく。保護者への呼び掛けも継続する。
様々な活動に取り組んでいる。学年によって決まっている活動もあるが、子どもたちの願いから取り組んだ活動もあった。ふるさと学習発表会でしっかりとまとめることができた。	○				こちらの思いに手を買ってくださる地域の方にはたくさんいると思うので、学校発信の活動を考えていく。活動スタート時の願いの共有を大切にしてい。
学年によって差がある。様々な行事や活動があることで、探究的に学ぶ時間が確保できていない場面も見られるが、活動にしっかりと取り組んでいる。		○			子どもたちのやりたい気持ち、大切にしたい願いをはっきりさせ、自分たちの活動を自分たちで進めていくことを大切にする。年度末に来年度の計画を考え、次の年につなげる。
様々な活動に参加・協力していただいている。数年ぶりにお助け隊総会を開き、アドバイザーにも参加してもらい、話し合う機会をもつことができた。		○			保護者、子どもたち、地域の願いや思いを聞きつつ、課題をはっきりとさせ、改善に向けて取り組んでいけるようにする。
子育て委員会を中心に休みの日のメディアコントロールに取り組んだが個人差がある。あいさつについても、個人差が大きく課題が残る。	○				メディアコントロールデーの取り組みについて引き続きおたよりやアプリを使い呼びかける。睡眠時間の確保のためにも、メディアコントロールを大切に考える。
授業公開を通じて、日常の授業を見直し、テーマに沿った授業改善についてグループで研修した。日々、授業について相談できる環境ができてい。		○			研修したことが日々の授業に生かされているか、振り返る場をもつ。気軽にお互いの授業を参観しあったり、研修したことを共有したりすることを大切にす。
年度当初に比べ、超過勤務の時間は減っている。連学年授業を取り入れ、空き時間が持てるようにしている。学校業務支援員の活用も進めることができた。		○			だれかに負担が多くならないように、職員全体で意識し声をかけあっていく。来年度はテトルの導入による業務軽減を考えていく。

○ 評価基準 A・・・達成できた B・・・おおむね達成できた C・・・やや達成できなかった D・・・達成できなかった